

第2部 基本構想



まちづくりの基本理念

SHIMONOSEKI VISION

可能性を築くまち

目指すべき本市の将来像を描き、その実現に向けて今後10年間の取組をまとめた新しいビジョンを、市と作成に関わった市民が一体となって共同で策定し、『可能性を築くまち』を基本理念として決めました。

そこには、市民や下関に関わる人たちに向けて、“誰もが安心して未来を描いていける環境を整え、各々が個性を活かし、輝けるまちを、下関で暮らす市民、活動する人たちと一緒に築いていきたい”という想いをこめました。

可能性というのは、必ずしも新しいことへの挑戦を示すものではありません。
“誰もが安心して未来を描けるか”ということを経験として考えています。

まず、誰にとっても安心して暮らせるまちであり、地域みんなで子育てをするまちであること。国籍/性別/年齢/障害の有無などに左右されることなく学ぶことができ、働くことができるまちづくりが不可欠です。

その上で、何か歩みを進めよう、挑戦をしてみようとする意識を育み、下関の価値を存分に活用した挑戦が実現できる環境を整えていきます。

下関は、多様な自然環境があり、各地で育まれた地域資源によって、幅広いライフスタイルが選択できるまちです。そして、古くから海峡のまちとして、歴史を動かそうとしてきた人びとが交差してきた土地でもあります。

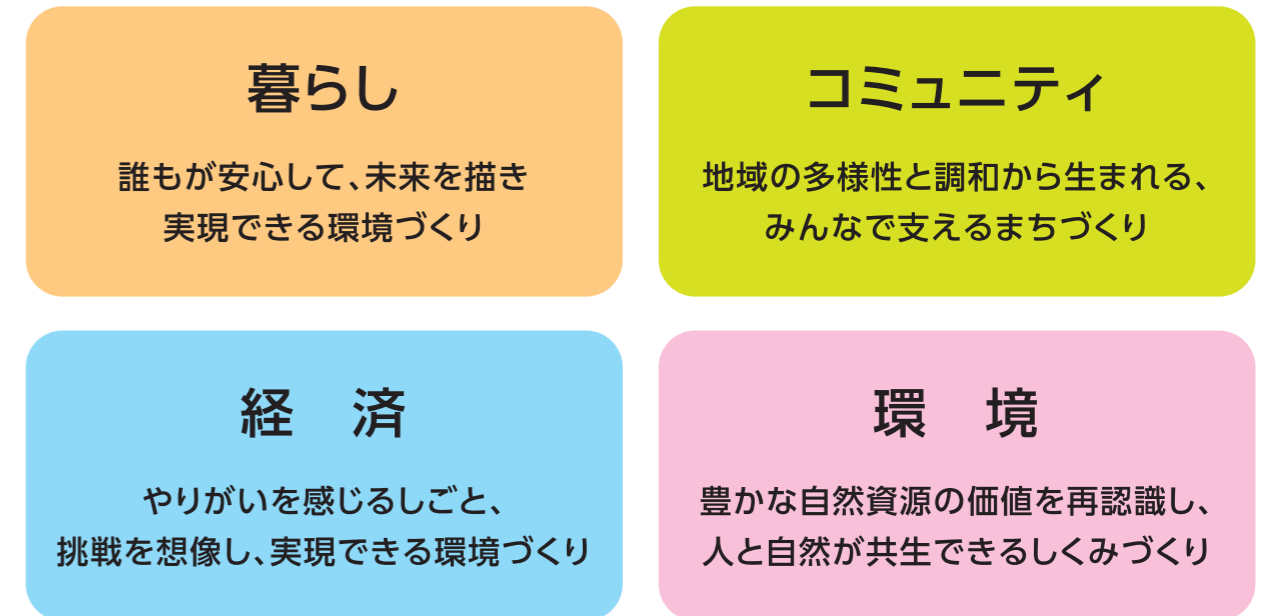
私たちは、そんな下関の可能性を信じています。

変化を追い風に、新しい視点を持ち、かつ俯瞰して、下関というまちを捉え直し、住みやすい、住み続けたい、下関で挑戦したいと思われるまちを目指していきます。

下関の土地自体が持つ“可能性”と、下関に暮らす/関わる人たちの“可能性”を築いていき、未来へと下関を繋いでいしましょう。

EXPLODED VIEW

展開図



ROAD TO 2034

10年後の下関

	2023年 基準値	2034年 目標値
下関は「住みやすいと思う」市民の割合	88%	100%
下関を「自分のまちとして愛着を感じる」市民の割合	84%	100%
下関に「住みたい/住み続けたいと思う」市民の割合	70%	100%
若者(39歳以下)の		社会減ゼロ

子育て

コミュニティ
協働

にぎわいスポット

アウトドア



スポーツ
エンターテインメント

共生社会
多文化共生

スタートアップ
クリエイティブ

移住
リノベーション

地域別まちづくりの方向性

地域の特性や課題などを踏まえ、ゾーン及び軸を設定し、まちづくりの方向を示します。

1. ゾーン形成

(1) 都市拠点ゾーン

本市の経済産業の中心として高度な都市的サービスを担い、行きたい、住みたい、働きたい、チャレンジしたいと感じる、魅力と活力に満ちあふれ、まちの顔となる市街地機能を有するエリアとして、都市拠点ゾーンを形成します。

(2) 環境共生ゾーン

地域の特色を活かして本市を代表する多様な魅力や価値観を創造する場としての機能を強化します。

① 田園環境共生ゾーン

豊かな自然と共生し、その恵みを活かしたまちづくりを推進するエリアとして、田園環境共生ゾーンを形成します。

② 海岸環境共生ゾーン

山陰海岸を有する豊かな自然と共生し、海との関わりを活かしたまちづくりを推進するエリアとして、海岸環境共生ゾーンを形成します。

(3) 交流促進ゾーン

地域の多様な人材・資源を活かしたまちづくりを推進し、市全体の価値や魅力を向上させることにより、市外さらには海外との多分野における交流を展開する交流促進ゾーンを形成します。

関連個別計画 (1) 都市拠点ゾーン (2) 環境共生ゾーン

- 下関市都市計画マスタープラン 令和3(2021)～令和22(2040)年度
- 下関市立地適正化計画 令和元(2019)～令和22(2040)年度
- 下関市過疎地域持続的発展計画 令和3(2021)～令和12(2030)年度
- 地域再生計画

2. 地域連携軸の形成

各ゾーンにおける地域の特色を活かしたまちづくりの取組や地域間の交流など、様々な活動を支える連携機能として、道路や鉄道・バスなどの交通網や、情報・市民サービスなどのネットワークを地域連携軸と位置付け、市全体における経済の活性化や生活の利便性の向上に向けて機能維持・強化を図ります。

地域別まちづくりの方向性(イメージ図)

